

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	関係行政論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-江頭 重宏	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 関係行政論は、公認心理師となるために必要な科目として公認心理師法に定められており、公認心理師として社会において活動する上で必要となる施策や法律、制度そしてその基礎となる考え方について理解を深めることをその目的とする。	メッセージ 法律、制度や行政に少しでも親しんでいけるよう進めて行きたいと考えています。法律などが、公認心理師の業務特に対象者理解や対象者への寄り添い方にも深く関係することを理解していただき、苦手意識を克服できるようにしたいと思っています。また、臨床実践において、法と倫理の繋がりを意識できるようにしたいと考えています。
	到達目標 ①心理支援と法律・制度の関係について理解できる。 ②保健・医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野及び産業分野の5分野に関係する制度の基本が理解できる。 ③心理臨床実践において、法と倫理との繋がりを意識できるようにする。 ④心理臨床実践において、法律上の課題を認識できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(対)オリエンテーション 法律、制度の基本と公認心理師	テキスト第1章及び憲法予習
	2	(対)公認心理師の法的立場と他職種連携	テキスト第2章、公認心理師法予習
3	(対)公認心理師の各分野への展開	テキスト第3章及び図A～K予習	
4	(対)保健・医療分野に関する法律・制度(1)医療全般	テキスト第4章予習	
5	(対)保健・医療分野に関する法律・制度(2)精神科医療	テキスト第5章及び表1～4予習	
6	(対)保健・医療分野に関する法律・制度(3)地域保健・医療	テキスト第6章及びPFA予習	
7	(対)福祉分野に関する法律・制度(1)児童福祉	テキスト第7章、児福法改正の契機	
8	(対)福祉分野に関する法律・制度(2)障害者・障害児福祉	第8章、津久井やまゆり園事件予習	
9	(対)福祉分野に関する法律・制度(3)高齢者福祉	テキスト第9章、認知症の種類予習	
10	(対)教育分野に関する法律・制度	テキスト第10章、11章チーム学校	
11	(対)司法・犯罪分野に関する法律・制度(1)刑事	テキスト第12章予習	
12	(対)司法・犯罪分野に関する法律・制度(2)家事	第13章及び子の最善の利益予習	
13	(対)司法・犯罪分野に関する法律・制度(3)少年非行	第14章及び著名な少年非行予習	
14	(対)産業・労働に関する法律・制度	テキスト第15章及び過労死事例予習	
15	(対)関係行政論と公認心理師	テキスト第16章 ふりかえり	
16	(対)試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献・資料など ◇テキスト；元永拓郎編(2018)関係行政論(野島一彦・繁樹算男監修「公認心理師の基礎と実践シリーズ23」)・遠見書房 ◇参考文献；金子和夫監修(2016)心の専門家が出会う法律(新版)誠信書房 参考文献；津川律子・元永拓郎編(2017)心理臨床における法と倫理 放送大学教育振興会		
	学びの手立て テキストを中心に講義を進めて行くので、予習をすれば一層理解が深まります。法律や条文は、面倒くささらず図書館で関連六法(福祉六法、教育六法など)を開いてみてください。総務省行政管理局のe-Gov電子政府の総合窓口で検索してみるのも良いと思います。		
	評価 評価方法；期末試験70%，平常点(予習、講義中の討議内容や受講態度)30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・各分野ごとの履修科目があるので、関連付けて学習を深めましょう。新しい制度や法律の制定や改正があった場合、自分がもしも公認心理師だったら、こう考える、と自分なりの意見を形成できるようにしましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	公認心理師の職責	前期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平安 良次	3年	授業終了後 もしくは、メール (hryoji@yahoo.co.jp) にて応じる	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門職としての責任を託されている公認心理師にとって、欠かすことのできない基本的な知識及び考え方について学ぶ。</p> <p>公認心理師には何が求められ、社会の中でどのような役割を果たすことが期待されているのか、そして、どのような研鑽を積むことが求められているのかについて学ぶ。</p>	<p>公認心理師について学ぶ多くのカリキュラムの中で、本講義は例えるならば「出発点」と言えるような内容を有する。</p> <p>受講者には職責について理解を深める中で、社会に貢献するために公認心理師に求められる資質は何かということを自主的に考えたもらいたい。</p>
到達目標	<p>本講義では、以下の4つを到達点とする。①公認心理師の役割及び法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。②自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。③生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。④多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理専門職としての公認心理師・国家資格化までの変遷	
	2	公認心理師の役割	教科書第1章を予習し疑問点を明記
	3	公認心理師の法的義務・倫理	教科書第2章を予習し疑問点を明記
	4	クライアント/患者らの安全の確保のために	教科書第3章を予習し疑問点を明記
	5	情報の適切な取り扱いについて	教科書第4章を予習し疑問点を明記
	6	保健医療分野における公認心理師の仕事・業務	教科書第5章を予習し疑問点を明記
	7	福祉分野における公認心理師の仕事・業務	教科書第6章を予習し疑問点を明記
	8	教育分野における公認心理師の仕事・業務	教科書第7章を予習し疑問点を明記
9	司法・犯罪分野における公認心理師の仕事・業務	教科書第8章を予習し疑問点を明記	
10	産業・労働分野における公認心理師の仕事・業務	教科書第9章を予習し疑問点を明記	
11	支援者としての自己課題発見・解決能力	教科書第10章を予習し疑問点を明記	
12	生涯学習への準備	教科書第11章を予習し疑問点を明記	
13	多職種連携・地域連携	教科書第12章を予習し疑問点を明記	
14	公認心理師の今後の展開	教科書第13章を予習し疑問点を明記	
15	振り返り・まとめ	事前に過去の問題点を整理し出席	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 【教科書】 野島一彦編 (2018) 公認心理師の基礎と実践 第1巻 公認心理師の職責 遠見書房		
学びの手立て	学びの手立て ・履修上の注意事項：遅刻や欠席はしないこと ・仕事に対する姿勢など、心理専門職として身につけるべき内容を扱った講義であるため、講義に対しては各受講者の学習に対する能動的態度が求められる		
評価	評価 ・評価方法：期末テスト及びレポートについて評価する ・評価比率：期末テスト (70%)、レポート (30%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連項目・次のステージ ・講義内容をもとに、能動的に文献等を調べ自己研鑽に努めること
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理演習	通年	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室3号館213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ロールプレイや事例検討によって心理支援の実際を模擬的に体験し、公認心理師としての必要な知識と技能を習得する。	メッセージ 公認心理師としての必要な知識と技能を習得し、実習・実践に活かせるよう、積極的な態度で参加することが求められる。
	到達目標 ①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション・心理検査・心理面接・地域支援などの知識及び技能の習得 ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズ把握及び支援計画の作成 ③心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ ④公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の精読
	2	公認心理師とは：職業倫理①	配布資料の精読
	3	公認心理師としての職業倫理②及び法的義務	配布資料の精読
	4	心理面接とは何か	心理面接に関する調べ学習
	5	心理アセスメントとはなにか	心理アセスメントに関する調べ学習
	6	コミュニケーションスキル① 相手の話を聴く	ロールプレイの振り返り
	7	コミュニケーションスキル② アサーティブな自己表現	ロールプレイの振り返り
	8	コミュニケーションスキル③	ロールプレイの振り返り
	9	心理検査の倫理問題① インフォームドコンセントと守秘義務	課題の検討
	10	心理検査の倫理問題②	課題の検討
	11	心理検査の実際① 導入場面のロールプレイ	ロールプレイの振り返り
	12	心理検査の実際② 実施とフィードバック	配布資料の精読・振り返り
	13	心理面接① 心理面接適用の倫理	ロールプレイの準備・振り返り
	14	心理面接② 模擬カウンセリング	ロールプレイの準備・振り返り
	15	前半のまとめ・振り返り	レポート作成
	16	支援を要する者のニーズの把握①	配布資料の精読・課題の検討
	17	支援を要する者のニーズの把握②	配布資料の精読・課題の検討
	18	支援を要する者のニーズの把握③	配布資料の精読・課題の検討
	19	地域支援① 学校へのコンサルテーション	リフレクションシートの作成
	20	地域支援② 災害・事件への心理的支援	リフレクションシートの作成
	21	地域支援③ 職場のメンタルヘルス	プログラム案の作成
	22	チームアプローチ①	身体疾患の心理支援事前学習
	23	チームアプローチ②	虐待に関する事前学習
	24	多職種連携①	関連法規の理解
	25	多職種連携②	多職種の役割についてまとめる
	26	地域連携① 自助グループ	自助グループについてまとめる
	27	地域連携② 施設等	関連施設についてまとめる
	28	支援計画の作成①	支援計画案の作成
29	支援計画の作成②	支援計画発表準備	
30	まとめ	レポート作成	
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 資格関連科目であり、公認心理師としての必要な知識と技能を身につけるために積極的にロールプレイや討議の参加が求められる。4分の3以上の出席を満たしていること。遅刻は原則認めない。</p>
	<p>評価 授業の演習と討議への関与度・積極性（50%） 課題およびレポートの評価（50%）</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを4年次の「心理実習」に活用する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理実習	通年	火4・5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田まで 研究室13号館213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実際の現場での実習を体験し、公認心理師として必要な知識と技能を習得する。	メッセージ 実際の現場に入っでの実習となるので、社会人としての態度をわきまえて、これまでに学んだことを統合しながら積極的に実習に取り組むことが求められる
	到達目標 各機関での心理支援は実際に何が行われるのかを学ぶとともに、心理に関する支援を要する者へのチーム・アプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務についても学ぶ。	

学びの準備	到達目標 各機関での心理支援は実際に何が行われるのかを学ぶとともに、心理に関する支援を要する者へのチーム・アプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務についても学ぶ。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の精読
	2	実習全体についての事前準備	配布資料の精読
	3	事前学習 精神科病院①	実習先の資料収集
	4	事前学習 精神科病院①	実習先の概要をまとめる
	5	訪問実習 精神科病院①	実習記録整理
	6	訪問実習 精神科病院①	実習記録整理
	7	訪問実習 精神科病院①	実習記録整理
	8	事後学習 精神科病院①	実習報告書作成
	9	事後学習 精神科病院①	実習報告書作成
	10	事前学習 精神科病院②	実習先の資料収集、概要のまとめ
	11	訪問実習 精神科病院②	実習記録整理
	12	訪問実習 精神科病院②	実習記録整理
	13	訪問実習 精神科病院②	実習記録整理
	14	事後学習 精神科病院②	実習報告書作成
	15	事後学習 精神科病院②	実習報告書作成
	16	事前学習 福祉分野	実習先の資料収集、概要のまとめ
	17	訪問実習 福祉分野	実習記録整理
	18	訪問実習 福祉分野	実習記録整理
	19	訪問実習 福祉分野	実習記録整理
	20	事後学習 福祉分野	実習報告書作成
	21	事前学習 少年鑑別所	実習先の資料収集、概要のまとめ
	22	訪問実習 少年鑑別所	実習記録整理
	23	訪問実習 少年鑑別所	実習記録整理
	24	訪問実習 少年鑑別所	実習記録整理
	25	事後学習 少年鑑別所	実習報告書作成
	26	事前学習 教育委員会	実習先の資料収集、概要のまとめ
	27	訪問実習 教育委員会	実習記録整理
	28	訪問実習 教育委員会	実習記録整理
	29	訪問実習 教育委員会	実習記録整理
30	事後学習 教育委員会	実習報告書作成	
31	合同実習発表会	発表会資料作成	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 資格関連科目であり、公認心理師に必要な知識と技能を身につけるためには積極的に実習に参加しなければならない。原則として全回出席が求められる。遅刻も原則認めない。すべての実習に心身共に良好な状態で参加できるように、1年間を通して体調管理に気をつけること。</p>
	<p>評価 実習への参加態度と理解を実習記録、実習報告書から評価する（90%）。最後の合同実習発表会の発表内容を評価する（10%）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 本実習で学んだことを大学院での実習に活用する。</p>